

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人松涛会	代表者	斎藤 妙子	法人・事業所の特徴	「地域の中で生き生きとその人らしくゆったりと、楽しく自由にありのままに」を理念に利用者様の気持ちに向き合い、寄り添いながら支援すること大切にしています。また地域に密着したサービスの向上を心掛けています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 くるみの家	管理者	濱田 英記		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	1人	1人	人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	「私の姿と気持ちシート」の作成、活用や「通い」の充実など具体的な改善計画を一つずつ達成し充実したものにしていく。	「通い」の充実は改善できている。「私の姿と気持ちシート」の取り掛かりはできたが、活用や新規の作成には進めなかった。	施設での取組みに対して、職員一人一人の意見が反映されていると良い。	ミーティングなどの場で職員全体で改善計画について話し合い、決定事項に対して職員一人一人が自覚しながら充実した支援に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染対策はもちろん継続するが、季節感を感じるような飾りつけや清潔感ある環境と家族見学者の方が声を掛けやすい雰囲気を作りたい。	利用者からコロナウイルス陽性者が1名発生したり、インフルエンザの蔓延によるクラスターが発生するなど感染対策の重要性を再確認する中で、利用者には生活しやすい環境を提供することは出来ていると感じる。	地域の拠り所として、誰もが気軽に出入りしやすい施設であると思う。	感染対策の強化と継続を行いながら、清潔感のある環境整備と来所者が気軽に声を掛けやすい雰囲気作りや飾りつけを行っていききたい。
C. 事業所と地域のかかわり	不十分だった情報交換を密に行い、地域との協働作業を取り組んでいきたい。	コロナ禍が落ち着きを見せ、運営推進会議の再開をすることが出来、少しずつではあるが地域との情報交換の場を持つことが出来てきていると感じる。	施設内行事⇔地域行事の参加がお互いに出来、更なる交流を深め地域とのかかわりに繋げてほしい。	地域イベントの情報収集や施設内行事の情報発信などを充実させ、地域とのかかわりを深めていきたい。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	来年度は制限も緩み、地域に出向くことが可能になることを期待している。内外のイベント・行事に参加し利用者に充実した生活を過ごして頂く。	地域イベントへの参加や外出支援など少しずつではあるが、参加や企画を立てることが出来ており、利用者が充実した生活を送れる支援に繋がっていると感じる。	地域イベント等への参加は増えていると思う。「施設見学ツアー」などを企画し、施設の特徴や取組みを理解してもらい認知度の拡大に繋がると良いと思う。	施設内外のイベントへの参加・充実を図りながら個別支援の取組みも行っていく事で、地域の一員として支援できる環境を作っていきたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域からの情報を基に施設、利用者の社会参加を行い、地域で心配な方の事例検討等で話し合えるような地域に貢献できる場にした。	運営推進会議の場で一般的な情報交換は出来ているが、具体的な事例を検討するまでには至らなかった。	会議の中で地域の心配な方等の事例検討が出来れば良いと思う。そのエリアの課題として検討、取組みに繋がると良い。	地域での心配な方等の事例検討等を会議で話し合い、施設として具体的にかかわっていける場にした。
F. 事業所の防災・災害対策	地域住民の方の災害時の避難場所としての受け入れ等対応できるようにBCP（災害時の業務継続計画）の体制を構築する。	BCP（災害時の業務継続計画）の研修を行う事で、職員が緊急時に慌てず対応できる体制作りを強化する訓練ができていく。	災害時に地域住民の避難先としての拠点となるため、地域の防災訓練にも積極的に参加できれば、協働作業がしやすい環境にも繋がると思う。	地域の防災訓練への参加やBCP（災害時の業務継続計画）の研修を年2回行い、施設として地域の中で緊急時に拠点となれる体制を構築していく。